



小千谷市立 総合支援学校 進路だより

No. 4 (R3/9/2)

〒949-8721
小千谷市大字塩殿甲 2144 番地
TEL 0258-82-1878

保護者のみなさまからご質問をいただきました

1学期末のアンケート等を通じて保護者のみなさまからいただいた質問にお答えします。

Q、2、3年生の職場実習は前期、後期とも同じ実習先ですか？

A、2年生は基本的に別の業種での実習をお薦めしています。1、2年生のうちに色々な職場を知り、比較することで進路選択が可能となるからです。3年生は就労を目指す実習を行いますので前期実習で内定をいただければ後期も同じ事業所で実習を行い、卒業後の就業生活に備えます。



Q、実習先でのてんかん発作は大丈夫ですか？

A、発作や食物アレルギー、特に苦手なシチュエーション等、いざという時の対応が必要な事は、実習を依頼する際に事業所にお伝えします。事業所はそれらの情報を鑑み、受け入れの可否を判断、または従事する業務を選定します。実習実施前には4者（本人、保護者、事業所、学校職員）による事前打ち合わせを設けますので、保護者のみなさまからはその場で直接対応を確認していただけます。実習中、学校職員は基本的に巡回支援（滞在時間は1か所につき15分から1時間程度）を行いますので、トラブルが起こるとすると学校職員不在の状況である可能性が高いです。この場合はまず実習先職員から対応していただきますが、学校職員も連絡を受けて速やかに駆け付けられるよう準備しています。



Q、仕事の関係で、家族による送迎が難しいのですが・・・。

A、卒業後の就労先によっては、送迎サービスを利用できます。それぞれ範囲やルートがおおよそ決まっていますので、条件に合えば利用可能ということになります。ただし実習生の送迎は基本的に行っておりませんので、家族による送迎ができなければ自力で通勤する必要があります。実習をきっかけに、初めて一人で路線バスや電車に乗る生徒もいます。この場合はご家庭に事前練習をお願いしますので、何卒ご協力の程よろしくお願いたします。

Q、開始時間より少し早めの出勤は可能ですか？

A、事業所によります。食品工場等、準備に時間がかかる場合は早めに入りますし、反対に早すぎると迷惑になってしまう事業所もあります。細かい時間は打ち合わせの際に確認していただきますが、「開始10～15分前に出勤」と考えていただくと丁度良いと思います。

Q、福祉サービス事業所の定員が一杯と聞くので、卒業後の利用先が心配です。

A、小千谷市の福祉サービス事業所利用状況は、一言で表すと「ピッタリ一杯」です。よって今後、卒業生が利用するにあたり余裕があるとは言えません。解決方法として以下の3点が考えられます。

①既存の事業所の受入定員を増やす

→定員増のためには施設面積（利用者1名あたりおおむね3㎡が必要）や職員の確保等々、施設側にもクリアすべき基準があります。変更の決定までに時間もかかります。さらに「利用者お一人に対する職員報酬」も定員20名単位で変わる（減ります）ので、「定員20名の次は一足飛びに40名を目指さないと、かえって経営が厳しくなる」ということになります。施設にとって、「少しずつ定員を増やす」ということは制度上難しいのです。この仕組みが「毎年少人数の卒業生が利用を希望する」という学校のニーズとうまくかみ合わないため、定員ギリギリの中での調整を余儀なくされています。

②新規事業所が開所する

→10月より就労継続支援B型事業所『想(そう)』が開所します。B型の開所に先駆け、すでに日中一時支援としてスタートしています。市内初のNPO法人によるB型になります。新しい福祉就労先として期待しています。開所にあたり申請から諸々の認可が下りるまで1年近くを要したそうです。



③市外の事業所を利用する

→定員に空きがあり、活動内容も合っているとなれば市外の事業所を利用することも良い選択です。この場合、問題になるのは通勤です。卒業生の例ですと…自宅に住み隣市まで電車通勤、または事業所近くに引っ越され、通われています。隣の市の事業所が小千谷市まで送迎することはまずありませんので、自力での通所が難しければ保護者から送迎していただくことになります。



以上のことから、**卒業後の福祉就労へ向けた準備としてポイント**となるのは…

- ・公共交通機関を利用できるように練習しておくこと
- ・自分のことは極力自分で行えるようにした上で、どうしても必要な支援を伝えられること
- ・集団に適應できる力（挨拶、礼儀正しさ、素直さ…）の中で、得意なことを伸ばすこと
- ・情報収集に努めること……であると考えます。

このような準備をしておけば、卒業後の進路選択の幅を広げることができます。学校の教育活動では十分に準備できない内容もあり、保護者のみなさまからの協力が必要です。ぜひ互いに相談しながら良い準備を進めていきましょう。

Q、校内実習の作業、休憩時間は実際の福祉サービス事業所を意識したものでしょうか？

A、そうです。日程の都合上、作業そのものの時間は学校の方が短くなります。一方実習期間中も朝運動は行いますので、体力面では学校の方がやや厳しいです。校内実習で発揮できる力を100%とすると、職場実習で発揮できるのは一生懸命取り組んでも70～80%くらいだと感じます。できれば職場では成功体験を積んでほしいので、校内実習の目標はあえてやや高めを目指しています。

保護者アンケート（高等部前期実習）の紹介です

高等部の保護者様よりいただいた実習アンケートを一部ご紹介します。

Q、今回の実習でお子さんにどんな成長・成果が見られましたか？

- ・以前だったら諦めてしまったり逃げてしまったりすることがありましたが、逃げたり手を止めることなく頑張ったと思います。
- ・実習前の「家庭チャレンジ」ですが、その後も自分の仕事として継続して取り組んでくれています。
- ・頭も体も使うせいか、やせました。
- ・朝の行動が、前より少し早くなりました。
- ・手伝いをしてあげることが増えました。
- ・家庭でも実習でやった事を自主的に練習していました。
- ・根気強さが身に付いたような気がしました。
- ・家庭でも丁寧な言葉遣いが聞かれました。
- ・正しく丁寧に仕事をするという気持ちを持てたことが、うれしかったです。
- ・体力を使う仕事でしたが、黙々と作業している様子が見られて良かったです。
- ・何をすればよいのか、考えて行動できていたのが良かったです。
- ・未経験の仕事最後まですることができました。
- ・公共交通機関に挑戦し、一人で乗り降りができるようになりました。
- ・普段と違う生活だったので環境の変化に慣れるのが難しかったです。
- ・他の利用者さんとの関係も上手く築くことができたようで、「また行きたい」と言っていました。
- ・去年は工場で一人黙々とする作業でしたが、今回はサービス業でした。終わるころには楽しかったと言っていました。選択肢が広がって、とても身になった実習でした。



Q、実習に関して、保護者の立場からのお考えをお聞かせください

- ・家だと報告などはあまりしませんが、実習ではしっかり指導してもらっていて、実習は大切だとあらためて感じました。
- ・校内実習でも本当の会社のような雰囲気を作ってください、ありがとうございました。

- ・実習を通して自分の適性や課題を見つけたことが、先の進路に役立つと思います。
- ・実習ノートを見て頑張っていたことをほめたり、課題についても「次がんばろうね」と声を掛けたりすることができました。
- ・実習先の活動を見学させていただき、勉強になりました。
- ・見学に行った時、作業のペースが速くて「すごいなあ～」と成長を感じました。いつもと違う一面が見られて良かったです。
- ・以前は新しい環境が苦手でしたが、新しい実習先へは緊張もなくいくことができ、驚きました。
- ・2週目からは自力で電車通勤できるようになったのが最大の収穫でした。
- ・普段接しない方々に教えてもらうことで、人付き合いの大切さや仕事の手順を考えることができたと思います。家庭で生かしていけるとと思います。
- ・卒業後のことを色々考えていますが、まだうまくまとまりません。どうしたらいいか考えていますので、よろしくお願いします。
- ・実習初日に自分のやりたい仕事だと感じたようです。

Q、今後に向けてのご要望、ご質問、将来の生活や社会についてのお考えをお聞かせください

- ・保護者の仕事の都合上、将来的には送迎が難しいです。
- ・どんな仕事でも人間関係が一番大切だと思います。子どものことを理解していただける職場で短時間でもよいので継続して働き続けられたら良いと思います。
- ・色々な職種に挑戦できたらと思います。
- ・実習期間に限らず、規則正しく生活してほしいです。就職したら辞めずに頑張れるよう、力を付けてほしいです。

前期実習を終え、後期実習へ向けて



昨年度に続き新型コロナウイルス感染症対策から、様々な調整が必要な実習となりました。実習先のみなさまと保護者のみなさまのご協力に心より感謝申し上げます。また実習生も一生懸命学び、支援者の想いに応えてくれました。頼もしさとうれしさを感じました。お疲れさまでした。

今後はかなりのスピードでAIが台頭し、これまで当たり前存在した仕事が変わったり無くなったりしていきます。この状況を受け、「働き方」や「働く目的」、ひいては「働くことそのものの意味」についてもこれまでの常識が通用しなくなってきた…と、現場レベルで感じています。

私たちは「より良い働き方」から「より良い生き方」を探っていく時代を生きているのではないのでしょうか。「ひたすらに働くことを考えること」よりも「より良く生きようとする」との方が難解であると思います。しかしその分、人生をかけて追求するにふさわしい事柄なのだとも思います。これからの進路は従来のモデル通りにはならないと思いますが、どの生徒にも「自分の居場所がある」ということだけは達成してもらえよう、頭を柔らかくして後期実習準備へと臨んでいきます。今後ともご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

～お問い合わせ、ご相談等ございましたら、いつでもご連絡ください～



〒949-8721

新潟県小千谷市大字塩殿甲2144番地

小千谷市立総合支援学校 進路指導主事(松川正太郎)

TEL 0258-82-1878 FAX 0258-82-1889

E-mail sogosien@ojiya.ed.jp